

鳥取県公立学校の教職員としての資質の向上に関する指標【寄宿舍教諭・寄宿舍指導員】

令和3年4月1日 鳥取県教育委員会

観点 指針の配慮項目番号 キーワード		職		寄宿舍指導員		寄宿舍教諭	
		キャリア スタート期 (採用時)	育成期(第1ステージ) (1~5年目)	向上期(第2ステージ) (6~10年目)	充実期(第3ステージ) (11年目以降)		
			<p>寄宿舍指導員としての必要な基礎的素養・指導技術を広く習得し、実践的指導力を身に付けるとともに、学校組織の一員としての自覚を高める。</p>	<p>第1ステージの経験をもとに、舎生の指導についての専門的知識・技能を習得するとともに、得意分野の開発と実践的指導力の向上及び視野の拡大を図る。</p>	<p>第2ステージの経験をもとに、職務に関する専門性を発揮して舎生の指導に当たるとともに、広い視点から寄宿舍運営に積極的に参画する。</p>		
					充実期前期	充実期後期	
素 養	① 理解力、教育的愛情	児童生徒に対する理解と教育的愛情を有している。					
	② 専門的知識・技能、指導力	舎生の 指導 に関する知識と実践的な指導力を有している。					
	③ 創造力、対応能力	課題解決に向けた柔軟な発想と対応能力を有している。					
	④ 自覚、協調性、倫理観	組織の構成員としての自覚と協調性を有するとともに、公務員としての倫理観、及び法令順守の精神を有している。					
	⑤ 教養、人権意識	社会人としての豊かな教養、優れた人権意識を有している。					
日 常 生 活 上 の 世 話	② 教育の方法及び技術	各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施	・障がいや支援方法に関する技能と知識を習得している。	・「学習指導要領」の趣旨を踏まえ、舎生一人ひとりの健康・障がいの程度等を把握し、教職員や保護者と連携して児童生徒一人ひとりに応じた適切な支援を行っている。	・「学習指導要領」の趣旨を踏まえ、舎生の実態や学校、地域の特色を生かした支援方法の改善に取り組み、教職員や保護者と連携して児童生徒一人ひとりに応じて支援の充実を図っている。	・「学習指導要領」の趣旨を生かし、現状分析をもとに教職員や保護者と連携して学校や地域の特色を生かした支援方法の開発を行い、改善案を提案している。	・校長の示す学校教育目標や学校として目指す方向性、及び教育活動の在り方を踏まえ、寄宿舍の特色化・魅力化づくりに積極的に関与している。
		舎生の理解と寄宿舍運営	・舎生との関わり ・集団づくり	・寄宿舍運営計画のもとに、適切に業務を遂行している。	・寄宿舍運営において、舎生の個別理解を図るとともに、集団の状況を把握している。	・運営目標に対する寄宿舍の現状を的確に分析し、改善に向けた具体的な方策を提案している。	・寄宿舍運営の具体的な方策を、寮務主任等と連携・協力して立案し、実行している。
舎 生 の 理 解 と 生 活 ・ 生 徒 指 導	④ 児童及び生徒理解、教育相談、進路指導及びキャリア教育、いじめ・不登校対策⑤ 特別支援教育等	教育相談、キャリア教育、生徒指導及びいじめ・不登校対策	・児童生徒一人ひとりの実態把握に基づき、個に応じた教育の重要性を認識している。	・教育相談や生徒指導を適切に行う上で必要な理論や技法について理解するとともに、舎生の特性や人間関係、家庭環境等を把握し、それらを考慮した指導・支援を行っている。 ・いじめ・不登校等の課題に対して、関係教職員への報告・連絡・相談を密にして、解決に向けて対応している。 ・舎生の実態や学校(学科)の特色、地域の実情など様々な視点から現状を把握するとともに、舎生の自立に向けた適切な生活指導を行っている。	・舎生一人ひとりの特性や人間関係、家庭環境などを多面的に捉え、個に応じた適切な指導・支援を行っている。 ・同僚の生徒指導上の悩みを理解し、課題の解決に向けて指導・助言を行っている。 ・いじめ・不登校等の課題について、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、課題の解決に向けて組織的に対応している。 ・舎生の夢や希望及び実態を的確に把握し、キャリア教育(生き方・進路指導)の視点に立って、個に応じた適切な指導を行っている。	・舎生の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導・支援を組織的に継続して行っている。 ・舎生の生徒指導上の課題について教職員間で共通理解を図るとともに、課題の解決に向けて、関係機関と連携しながら組織的に対応している。 ・キャリア教育の全体計画や年間指導計画の内容を理解し、系統だった指導を組織をまとめながら適切に実践している。	・個々の舎生の実態を的確に把握し、関係教職員との連携を積極的に図り、課題に対して対応案を提案することで、組織的な対応ができる体制づくりに努めている。
		特別な配慮を必要とする児童生徒への指導	・特別支援教育の視点	・舎生の実態把握に基づいた「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行っている。	・関係機関と連携しながら、「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行っている。	・組織的な校内支援体制を構築し、関係機関等と連携を図りながら合理的配慮を行っている。 ・自立活動の内容に基づいた専門的な生活指導を行っている。 ・教員と連携し、「個別の指導計画」の作成に携わり、それを活用して指導を行っている。	
学 校 運 営 ・ 教 職 員 連 携	⑥ 学校運営⑦ 他の教職員との連携及び協働の在り方	学校安全への対応	・寄宿舍において、想定しうる危険性とその対応策を十分把握している。	・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、舎生が安心して学校生活を送ることができるための適切な対応や危機の未然防止に努めている。	・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、寄宿舍を広く見渡す視点に立った上で、過去の事例に学びながら、迅速な対応及び危機の未然防止に努めている。	・危機管理体制(危機管理マニュアル等)を把握し、必要に応じて危機管理体制の点検や改善をしている。	・学校全体の視点に立って、危機の未然防止策や危機発生時の具体的な対応策について、校長に進言したり、関係教職員に指示したりするなどの対応を行っている。
		家庭・地域とつながる力	・学校、家庭、地域との連携	・地域社会に貢献することについて、自分なりの考えを持ち、実行しようとしている。	・家庭・地域と連携し、舎生を共に育んでいこうとする関係を築いている。	・家庭・地域・関係機関等との連絡・調整に努め、必要な情報を収集・発信しながら、学校課題の解決に向けた校内体制を構築している。	・家庭、地域等との連携、調整役として、保護者や地域等の協力を得ながら学校の課題の解決に向けた取組を推進する役目として率先して行動している。
		組織として連携・協働する力(同僚、関係機関、異職種)	・目標 ・業務改善 ・事務 ・外部 ・チームマネジメント ・協働的教職員集団づくり	・集団で業務を遂行する際、自らの役割に応じて適切に行動し、力を発揮している。	・管理職や同僚の指導・助言を受けながら、組織の中における自らの役割や責任を自覚するとともに、その一員としての業務を遂行している。	・同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係教職員との連携を適切に行っている。 ・寄宿舍全体を広く見渡す視点に立って、自校の特色について把握し、その特色を生かした実践を行っている。	・寄宿舍の課題の解決に向けて、関係教職員との連携を計画的かつ積極的に進め、組織力を向上させている。 ・組織全体について、自己の経験を生かしながら内外の環境要因を広く見渡し、その特色を生かした「チーム学校」(効果的・効率的な組織)としての教育活動を展開している。
		各期(ステージ)において、学校教育目標の達成に向けて管理職及び同僚と協働しながら取り組むとともに、取組の継承や後継者育成を意識しながら業務を遂行している。					